



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場会社名 ホクト株式会社
コード番号 1379 URL <http://www.hokto-kinoko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水野 雅義

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 高藤 富夫

TEL 026-259-5955

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日

平成25年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	22,424	12.4	△1,320	—	△782	—	△672	—
25年3月期第2四半期	19,957	△7.5	△1,840	—	△2,009	—	△1,752	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 △454百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △1,648百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△21.15	—
25年3月期第2四半期	△53.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
26年3月期第2四半期	74,998	—	43,412	—	57.8	—
25年3月期	66,515	—	45,324	—	68.0	—

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 43,340百万円 25年3月期 45,251百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	47.00	57.00
26年3月期	—	10.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	47.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	15.7	3,500	48.3	3,700	△0.1	2,260	42.7	67.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1社 (社名) 株式会社アーデン、除外 1社 (社名) ホクトメディカル株式会社

(注)詳細は、(添付資料)4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	33,359,040 株	25年3月期	33,359,040 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	1,557,229 株	25年3月期	1,580,277 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	31,790,462 株	25年3月期2Q	32,947,576 株
----------	--------------	----------	--------------

(注)自己株式数には、従業員持株ESOP信託口の保有する当社株式218,600株を含めて表示しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において四半期レビュー手続が実施中では

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、中国をはじめとした新興国の景気減速や長引く欧州経済の低迷などの不安材料を抱えるものの、政府が推し進める経済対策や金融政策に対する期待感から円安と株高が進行したことや、五輪開催決定により景気回復への見通しが期待できることなどから、企業収益の改善や一部個人消費の持ち直しなど景気の自律的回復に向けた動きが見られてきました。また、個人消費におきましては景気回復の期待感を背景に僅かながら持ち直しの動きもみられているものの、輸入原材料等の価格上昇や来春から始まる消費税増税への懸念など国内景気の下振れ要因もあり、先行き不透明な状況で推移してまいりました。

このような経済環境の中、当社グループは製品の安全性に万全の体制で臨むとともに、各事業におきまして収益の拡大に努めてまいりました。中核を占めますきのこ事業につきましては、国内において新設きのこセンターの出荷開始や来期出荷開始となる新規きのこセンター建設の決定をいたしました。また海外においては東南アジアを中心とした輸出の拡大や来期出荷開始予定のマレーシア現地法人によるきのこセンターの建設に着手するなど、積極的な事業拡大を図ってまいりました。化成品事業につきましては、飲食用容器の製造販売に力を入れるとともに、工業系及び事務系資材の販売にも積極的に取り組んでまいりました。

また今後のきのこ事業の戦略的な事業展開と経営効率の向上を目的として、レトルト食品製造会社を子会社化いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は224億24百万円（前年同四半期比12.4%増）、営業損失13億20百万円（同営業損失金額18億40百万円）、経常損失7億82百万円（同経常損失金額20億9百万円）、四半期純損失6億72百万円（同四半期純損失金額17億52百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

[きのこ事業]

きのこ事業におきましては、生産の拡大と品質の向上、販売の強化を中心に業績の拡大に努めてまいりました。国内においては、新設いたしました上田第二きのこセンターが9月よりマイタケの出荷を開始いたしました。また台湾の現地法人台湾北斗生技股份有限公司においては昨年よりブナシメジの出荷を開始した第二きのこセンターが通年寄与となったことや、米国の現地法人HOKTO KINOKO COMPANYにおきまして全般的に稼働を高めたことなどにより、海外全体では生産量が増加いたしました。しかしながらグループ全体での生産量につきましては、主力となる国内のきのこ市場におきまして市場全体が供給過剰気味であったことなどから生産調整を行ったため、僅かながら減少いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間の生産量は、ブナピーを含めブナシメジが20,588 t（同0.5%増）、エリンギ9,350 t（同1.5%減）、マイタケ5,320 t（同4.2%減）となりました。販売面におきましては、市場全体に生産調整の動きが見られたことや後半の気温の急激な低下からくるきのこ需要の盛り上がりに加えて、「菌活」を合言葉に菌類を食することによる健康な体作りをテーマにブランドの展開を行ってきたことなどもあり、きのこ単価は堅調に推移いたしました。

以上の結果、きのこ事業全体の売上高は180億1百万円（同15.7%増）となりました。

[化成品事業]

化成品事業におきましては、原油価格の高止まりからくる売上原価の値上がりにより、厳しい販売環境となっております。そのような環境の中、飲食用容器の製造販売に力を入れるとともに、工業系資材や事務系資材の営業の拡大を積極的に進めております。また既存の取引につきましてもきめ細やかな営業を展開するなど販売活動に努めてまいりましたが、売上高は計画を僅かに下回り推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は44億23百万円（同0.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①資産の部

資産の部は749億98百万円となり、前連結会計年度末より84億82百万円増加いたしました。流動資産は163億99百万円となり前連結会計年度末より26億62百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金5億16百万円、受取手形及び売掛金13億9百万円、仕掛品6億1百万円の増加によるものであります。固定資産は585億98百万円となり、前連結会計年度末より58億20百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産47億64百万円及び無形固定資産7億59百万円の増加によるものであります。

②負債の部

負債の部は315億85百万円となり、前連結会計年度末より103億94百万円増加いたしました。流動負債は276億1百万円となり前連結会計年度末より101億71百万円の増加となりました。これは主に短期借入金85億円の増加によるものであります。固定負債は39億84百万円となり、前連結会計年度末より2億23百万円の増加となりました。これは主に引当金3億30百万円の増加によるものであります。

③純資産の部

純資産の部は、434億12百万円となり、前連結会計年度末より19億12百万円の減少となりました。これは主に配当金15億4百万円の支払いと四半期純損失6億72百万円の計上からくる利益剰余金21億66百万円の減少によるものであります。

また、キャッシュ・フローの状況につきましては、次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は42億44百万円となり、前連結会計年度末より14億8百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により減少した資金は8億3百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失7億45百万円及び減価償却費19億98百万円の計上と法人税等の支払額14億93百万円によるものであります。

また、前年同四半期連結累計期間と比較して29億4百万円の資金の増加となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間におきまして税金等調整前四半期純損失の計上が前年同四半期連結累計期間に対し、16億66百万円減少したこと及び法人税等の支払が16億32百万円減少したことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により減少した資金は48億2百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出37億77百万円によるものであります。

また、前年同四半期連結累計期間と比較して22億57百万円の支出の増加となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出18億25百万円によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により増加した資金は66億54百万円となりました。これは主に短期借入れによる収入90億円及び配当金の支払額14億91百万円によるものであります。

また、前年同四半期連結累計期間と比較して37億53百万円の収入の増加となりました。これは主に短期借入れによる収入の増加15億円と短期借入金の返済による支出の減少20億円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、世界的な経済情勢が不透明な状況で推移していることや輸入原材料等の円安による価格上昇と来春から始まる消費税増税への懸念などからくる国内景気の下振れ不安、きのこ市場が暖冬などの天候要因や市場環境に影響されるなど通期の見通しに対し不透明な要因もあることから、平成25年10月29日公表の通期業績予想を据え置くことといたしました。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

ホクトメディカル株式会社は当社と合併したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。また、当第2四半期連結会計期間より株式会社アーデンを子会社化したため、連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,181	4,698
受取手形及び売掛金	4,033	5,343
商品及び製品	1,502	1,372
仕掛品	2,915	3,516
原材料及び貯蔵品	475	613
その他	653	882
貸倒引当金	△24	△26
流動資産合計	13,737	16,399
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,300	45,475
減価償却累計額	△17,332	△18,901
建物及び構築物(純額)	24,968	26,574
機械装置及び運搬具	24,227	27,043
減価償却累計額	△14,230	△15,679
機械装置及び運搬具(純額)	9,996	11,363
土地	11,260	12,167
その他	2,059	3,106
減価償却累計額	△1,052	△1,215
その他(純額)	1,007	1,891
有形固定資産合計	47,232	51,997
無形固定資産		
のれん	—	798
その他	282	243
無形固定資産合計	282	1,042
投資その他の資産	5,262	5,558
固定資産合計	52,777	58,598
資産合計	66,515	74,998

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,307	5,327
短期借入金	7,500	16,000
未払法人税等	1,504	168
賞与引当金	709	891
その他	3,408	5,214
流動負債合計	17,430	27,601
固定負債		
長期借入金	3,521	3,280
引当金	0	330
資産除去債務	147	159
その他	90	213
固定負債合計	3,760	3,984
負債合計	21,190	31,585
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	5,695	5,701
利益剰余金	36,776	34,610
自己株式	△2,784	△2,753
株主資本合計	45,187	43,058
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	481	706
為替換算調整勘定	△417	△424
その他の包括利益累計額合計	63	281
新株予約権	72	71
純資産合計	45,324	43,412
負債純資産合計	66,515	74,998

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	19,957	22,424
売上原価	16,699	18,216
売上総利益	3,257	4,207
販売費及び一般管理費		
販売手数料	1,218	1,352
運搬費	1,413	1,472
賞与引当金繰入額	102	134
その他	2,363	2,568
販売費及び一般管理費合計	5,098	5,528
営業損失(△)	△1,840	△1,320
営業外収益		
受取配当金	37	65
為替差益	—	271
その他	171	245
営業外収益合計	208	582
営業外費用		
支払利息	43	43
為替差損	328	—
その他	6	0
営業外費用合計	378	44
経常損失(△)	△2,009	△782
特別利益		
受取保険金	2	14
投資有価証券売却益	—	25
その他	0	0
特別利益合計	2	40
特別損失		
固定資産売却損	—	1
投資有価証券売却損	—	1
投資有価証券評価損	356	—
その他	47	—
特別損失合計	404	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,411	△745
法人税、住民税及び事業税	187	101
法人税等調整額	△846	△173
法人税等合計	△658	△72
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,752	△672
四半期純損失(△)	△1,752	△672

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,752	△672
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	108	225
為替換算調整勘定	△3	△7
その他の包括利益合計	104	217
四半期包括利益	△1,648	△454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,648	△454
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,411	△745
減価償却費	1,792	1,998
賞与引当金の増減額(△は減少)	△75	130
前払年金費用の増減額(△は増加)	△50	49
受取利息及び受取配当金	△38	△75
支払利息	43	43
受取保険金	—	△14
為替差損益(△は益)	328	△282
投資有価証券評価損益(△は益)	356	—
売上債権の増減額(△は増加)	△365	△314
たな卸資産の増減額(△は増加)	△853	△446
仕入債務の増減額(△は減少)	561	323
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△87	△25
その他の流動負債の増減額(△は減少)	149	45
その他	65	△44
小計	△586	643
利息及び配当金の受取額	38	75
利息の支払額	△35	△43
法人税等の支払額	△3,125	△1,493
保険金の受取額	—	14
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,707	△803
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△30	△60
定期預金の払戻による収入	30	825
有形固定資産の取得による支出	△2,589	△3,777
有形固定資産の売却による収入	50	1
投資有価証券の取得による支出	△41	△277
投資有価証券の売却による収入	66	342
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,825
その他の支出	△32	△39
その他の収入	1	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,544	△4,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	7,500	9,000
短期借入金の返済による支出	△2,500	△500
長期借入れによる収入	400	—
長期借入金の返済による支出	△552	△390
自己株式の取得による支出	△400	△1
自己株式の売却による収入	4	38
配当金の支払額	△1,550	△1,491
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,900	6,654
現金及び現金同等物に係る換算差額	△126	7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,478	1,056
現金及び現金同等物の期首残高	6,313	3,187
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,835	4,244

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。